

令和2年度に係る業務の実績に関する 評価結果概要



評価結果の概況

令和2年度は、学長のリーダーシップの下、開発に協力した国産初の手術支援ロボットを導入し、今後の手術ログ収集等研究環境を整えているほか、産官学が協力連携し、次世代通信ネットワークを用いた遠隔ロボット手術の実現に向けた実証実験組織を立ち上げる（3ページ参照）など、「国立大学法人評価委員会」の評価において、4項目ともに「順調」との評価を受けました。

項目	評 定
(1) 業務運営の改善及び効率化	順 調
(2) 財務内容の改善	順 調
(3) 自己点検・評価及び情報提供	順 調
(4) その他業務運営	順 調

※ 各年度における評価では、教育研究等の質の向上の状況に関する評定は付されない。

以下に、「国立大学法人評価委員会」の評価結果において、「注目される」との評価を受けた取組を中心にその概要を掲載します。

教育研究に関して注目される取組

【国産初の手術支援ロボットの開発及び 実証実験組織の設置】

- [開発当初から協力してきた国産初の手術支援ロボット「hinotori」](#)を国際がん医療・研究センター手術室に導入し、今後の手術ログ収集等研究環境を整えた。
- 産官学が連携協力し、次世代通信ネットワークを用いた遠隔ロボット手術の実現に向けた最先端のネットワーク環境や医療機器を設置した実証実験組織「[プレジジョン・テレサージェリーセンター](#)」を立ち上げ、[世界初の取組となる商用 5 Gを介した無線による遠隔実証実験を開始](#)。



【「株式会社神戸大学イノベーション」の設立】

- [大学100%出資による産学連携事業会社「株式会社神戸大学イノベーション（KUI社）」](#)を設立の上、企業の柔軟な人事・会計制度を生かした人材を雇用し、[プレマーケティング](#)など新たな手法の導入や学内研究室と企業への積極的な営業活動を展開することで、[共同研究や知的財産活用等の企業等との連携をより活発化](#)させる活動を実施。
- [新型コロナウイルスなど感染対策のためのアクティブマスクや手術支援ロボット用のチェア](#)の共同開発等を行い、令和2年度の知財ライセンス収入は令和元年度の約7,000万円から約1億円へ増加した。

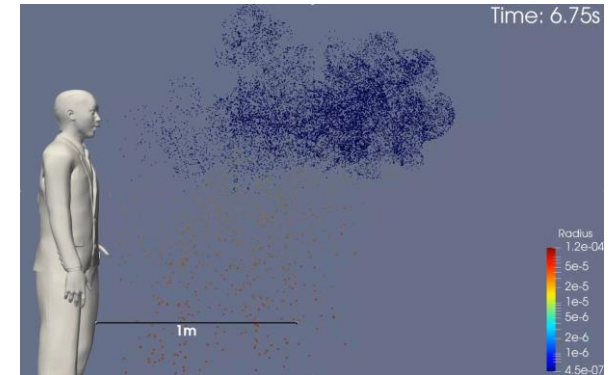


教育研究に関して注目される取組

【新型コロナウイルス感染症対策 についての研究実績】

- 本学教授がリーダーを務め、他大学と共同で実施する「富岳新型コロナ対策プロジェクト飛沫感染チーム」において、スーパーコンピュータ「富岳」を使用して、「室内環境におけるウイルス飛沫対策の予測とその対策」についてシミュレーションを行い、飛沫がどのように飛散するか予測・可視化しており、本データを基にした動画が多くのメディアで取り上げられている。
- その他にも自治体や企業と共同し、新型コロナウイルス感染症に係る様々な研究実績をあげている。

咳時の飛沫飛散のシミュレーション



【国内初となるオンライン認知症予防・ 健康増進プログラムの推進】

- 認知症の早期発見や予防策の研究である「認知症予防事業（コグニケア）」において、施設に通わなくてもオンラインで自宅からコグニケアに参加できる「eコグニケア」プログラムの開発に取り組み、令和2年9月に、大学初となるオンラインによる認知症予防・健康づくりプログラム「eコグニケア」の販売を開始し、70名の受講生を獲得。
- 本取組は高齢者を対象に、予防・介入・教育を行う複合的プログラムであり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による外出制限下においても、高齢者がロケーションフリーで参加でき、健康的な生活習慣作りを支援し続けることを可能としている。

神戸大学監修の 三位一体メソッド



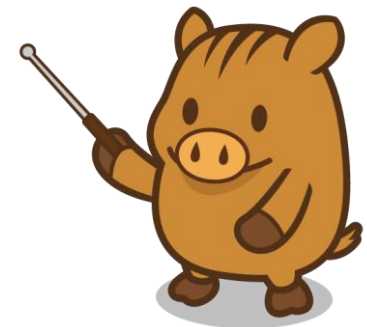
教育研究に関して注目される取組

【教育体験サマープログラムの実施】

- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施を見送った教育体験サマープログラムについて、代替となるオンラインのプログラムを令和3年2月～3月に実施。
- 2か月間の長期間にわたり、オンデマンドを中心とした形式で3講義を無料で開講し、中国、米国、英国、インド、エジプトなど世界24か国・地域にある86の大学から、601名の学部生・大学院生が参加し、内容に関するフィードバックがあった参加者のうち8割以上から肯定的な反応を得た。

【科学技術イノベーション研究科発バイオベンチャーを通じた研究成果の社会実装】

- 科学技術イノベーション研究科発のゲノム編集ベンチャー・株式会社バイオパレット(BP社)と、DNA合成ベンチャー・株式会社シンプロジェン(SP社)が、令和2年10月にオープンしたクリエイティブラボ神戸(CLIK)にラボを移転・拡張するなど事業を拡大し、近畿経済産業局が推進するスタートアップ企業育成支援プログラム「J-Startup KANSAI」対象企業としてそれぞれ選出されている。
- 大学とBP社及びSP社が個別に締結している実施許諾契約に基づき、2社が大学に支払った実施許諾料と特許出願・維持費用負担額の合計は、令和2年度において約1億2,000万円となっているほか、大学と2社が個別に締結している共同研究契約に基づき、大学が受け取った研究費用の合計は、同時期において約1,800万円となっている。



附属病院に関して注目される取組

【クラウドファンディングを活用した社会的期待に応える研究の実施】

- クラウドファンディングサービスを活用し、「トリプルネガティブ乳がん：再発を防ぐ治療薬、確立のための臨床試験を」の寄附を募り、目標額の2,000万円を大きく上回る3,000万円を超える寄附を集めるなど、[クラウドファンディングを活用した社会的期待に応える研究](#)に取り組んでいる。



臨床試験用資金、合計**2,000万円**を
2020年12月25日(金) 23時まで募っています

【新型コロナウイルス感染症に対する対応】

- 令和2年4月から[新型コロナウイルス感染症陽性患者の受入](#)を開始し、院内に設置した「新型コロナウイルス感染症対策本部会議」において兵庫県内及び隣接する大阪府での感染状況を注視しつつ、対応病床を整備するとともに、コロナ禍においても、特定機能病院として担うべき診療機能の維持に努め、地域医療の「最後の砦」としての役割を果たしている。

【臨床研究中核病院への承認に向けた取組】

- 令和2年度までに臨床研究推進センターに専任のプロジェクトマネジャー、生物統計家を新たに採用し、[臨床研究推進・臨床研究管理体制の強化](#)や[医療安全管理体制の整備の結果](#)、[医療法に定める臨床研究中核病院に承認](#) (令和3年4月)されるなど、臨床研究推進に向けて取り組んでいる。